

「偏光アート」独自開発

中区の環境保護へ一役期待 中桶さん

浜松市中区富塚町の中桶悟光さん(70)が「青空偏光を観測する会代表」が独自の教材「偏光アート」を開発した。大気汚染の教材。中桶さんは「これ



独自に開発した偏光アートについて説明する中桶さん―浜松市中区の自宅

を広めて、大気汚染の改善に役立てたい」と意気込む。

中桶さんは偏光科学を専門としていた元静岡大教官。同大工学部が取り組む、ものづくり理科大学支援ネットワーク「浜松RAIN房」の活動の一環として、二〇〇八年十一月には人材育成授業も実施した。

「子どもたちに興味を持ってもらえる方法はないか」と考え、その授業の教材として偏光アートを開発した。独自の図柄に切り抜いたセロハンとプラスチック板、二枚の偏光板を重ねて青空から差し込む自然光を当てると無色透明のセロハンに多彩な色が付く。光

の当て方や環境によって「予想もしない美しい色になる」(中桶さん)。

光の向きをそろえる機能がある偏光板を通った光がセロハンに当たって色が変化する仕組みだ。

人材育成授業では、アート作りに参加した子どもたちが夢中になって取り組み、「手応えを感じた」と中桶さん。「この教材によって地球環境を

守る意識が子どもにも芽生えるといい」と語る。各地で偏光アートの作品展を開催しているほか

出張講義なども受け付けている。問い合わせは中桶さんへ電053(472)6912へ。